

県民すべてのいのちに光を!

初心

2007年新春号

平成19年1月発行
年2回刊
題字/福田富一書

<発行所>
福田富一
暮しと政治研究所
〒321-0102
宇都宮市江曾島町98番地
TEL 028(645)5100
fukuda21@agate.plala.or.jp

平成19年の新春を迎えて!

栃木県知事 福田富一

新年あけましておめでとございます。
御家族お揃いで輝かしい新年を御健勝にてお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。お陰様で知事として三回目の正月となりました。皆様の御厚情に深く感謝申し上げます。

本年は「亥年」です。猪突猛進の言葉のごとく、艱難（かんなん）を乗り越え稔り多い年にして参りましょう。また「猪」は、豊作、無病息災の神でもありますので、皆様方にとりまして、商売繁盛、御家族安泰の一年となりますようご祈念申し上げます。



月刊『茶の間』の取材にて

致します（三十市町となる）。合併は、地方分権を確実なものとし、究極の行政改革と行政サービスの上を同時に進めることが可能となります。更なる積極的な取組をまいります。

一方、正規、非正規雇用者、都市と地方の格差問題。日本全体としては一昨年から、本県で

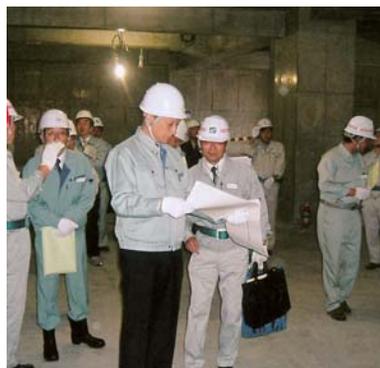
昨年は景気がさらに拡大し、いざなぎ景気を抜いて戦後最長となりました。しかし私達にとってその実感は乏しく、夢や希望が大きくふくらむ状況にはございません。

逆に「上流社会」「下流社会」「勝ち組」「負け組」「ニート」「フリーター」「セレブ」大金持ちなどという言葉が飛び交うなど、社会の連帯感を阻害した年であったのではと考えております。

本県における平成の大合併も第一幕が終了し、四十九市町村が三十三市町に再編されました。第二幕は、今年三月の上河内町、河内町が宇都宮市と合併することでスタート

は昨年から人口減少時代を迎え、その対応。官製談合による一部知事の相次ぐ逮捕など、いずれも県政を担う者として厳粛な課題と、真剣にとらえております。

私は今まで以上に襟を正し、これら課題の解決に精進致します。



県庁舎の工事現場を視察する知事

今年、県庁舎が完成致します（議会議棟は三月、行政棟は十二月）。それに合わせて、大規模な組織改編による県庁業務の見直しにより、意識改革、縦割りの解消などのきっかけとしたいと考えております。団塊世代の積極的な受け入れ、少子化や子育てを県民全体で支える仕組づくり、足利銀行の受け皿決定（夏頃）など、オール栃木、オール県庁で対応して参ります。

二〇〇万県民すべてのいのちに光のあたる県政を目指し、今年も知事としての「一分」を精一杯果たして参ります。引き続き、皆様の御指導御支援をお願い申し上げます、新年の挨拶と致します。

ちよつと一息

2人の福田富一さん 対面叶う!

東久留米市在住の福田富一（とみいち）さん（79）が、十二月十四日遠路はるばる知事を来訪された。

「知事は、栃木県出身で『福田富一』と、私と同姓同名で、宇都宮市長の頃から是非機会があればお会いしたいと願っておりました」と、富一（とみいち）さん。栃木の知人を介しての対面となったこの日、「念願を果して感激です」と語られた。

富一（とみいち）さんの父親が宇都宮市出身で、ご本人は日活（株）に勤務。定年後は、地域でボランティア活動に専念している。

今後は在京県人会を通して、同姓同名同士の友情は深まるだろう。後援会事務所では知事と対面した福田富一（とみいち）さん



女優・吉行和子さんをお迎えして

文化講演会

10月3日、グランドホテルを会場に、恒例の福田富一後援会主催による文化講演会を開催、講師には、圧倒的に希望の多かった女優・吉行和子さんと、聴き手として友人でありエッセイストの関容子さんを迎え、『楽しい生き方』と題し、97歳にして元気な日々を送る母、美容師の草分け・あぐりさんと吉行さん母娘ふたり旅のこと、「アネの日記」で民芸の舞台にデビュー以来のこと、「折れ梅」佐賀のがばいばあちゃん



吉行和子さん(右)と関容子さん(左)

後援会のページ

と続けて挑んだ老け役のことなどが語られた。当初、500名のご参加を予定していたところ、実際には900名を越す方々にお出でいただき、皆様には大変ご迷惑をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

就任2年目を記念し「知事と語る会」

知事就任2年の記念日に、第2回「知事と語る会」を開催、知事が1年にわたる県政全般を網羅して経緯と現状を



語り、その後質疑応答が交された。参会者約200名。栃木のブランド力として、全国に栃木の存在をアピールするには、県民が郷土を知り、誇りをもって語ることの必要を説いた。子ども育成には健全な家庭を築く努力を、健康な心身のためにも家庭の食生活と団結が不可欠なこと、県土発展を県民が願って地産地消を心がけて欲しいこと、それらのデータを示して全国との比較において語った。足銀受け皿選定作業も出口が見え始め、一ヶ月後に迎える新年からの意欲的な取り組みを述べた。

恒例のもちつき大会

今年は好天に恵まれ、昨年とは打って変わって穏やかな



師走、家族連れの地元や後援会の方々の数はいつしか千名を越えた。もち米、小豆、けんちん汁の野菜、漬けものすべて知事の両親丹精の品々、力自慢が交替で杵を振り上げ、十白の餅は、女性部おかささん達の手ぎわよい作業でたちまち、あんこ、きなこ、納豆、大根おろしにくるまれた。共同作業とは、人の心をなんと近づけるものかと思う、和やかな地域交流の日となった。

福田富一君の政治生活 25周年を祝う大新年会開催

日時 2月11日(日) 午後10時 受付 11時 開会
場所 大晃大飯店
会費 10,000円

※チケットご希望の方は事務所までご連絡下さい

福田知事は今年、政治生活25周年の節目を迎える。昭和56年、政治家を志して県庁を退職。政治評論家・鈴木精七氏に師事して政治家への道を歩み始めた。

昭和58年、29歳で宇都宮市議会議員に初当選。2期目の途中で栃木県議会議員補欠選挙に立候補するが力及ばず次点に終る。翌年の平成3年、栃木県議会議員に初当選。2期を務め、平成11年、増山道保市政の後を受け宇都宮市長に当選する。当時45歳。2期目半ばにして知事選に出馬、大勝を果した。知事就任以来、夜を朝に継ぐ精力的な働きと成果を挙げつつ、3年目の今年、政治生活25年の記念の年を迎える。各界名士の方々の発案とご支援により、2月11日(日)建国記念の日に、祝賀の催しが開かれることになった。

『福田家の茶の間』

私達は昨年12月12日、結婚25周年を迎えた。併せて今年も福田にとって、政治生活25年の節目を刻む年でもある。



設計の仕事が始まったばかりの頃。福田は「政治家を目指している事を理解した上で結婚だった」と、折に触れて言うが、当時の私に政治だの選挙だの解るはずもない。唯々一目惚れの結婚であった。そんな私を父は随分心配した。ある日結婚の準備で呉服屋に行った時「どうせみんな質屋に入ったやうんだらう」とぼつりと言った言葉を今でもはつきりと覚えている。その後私は何度父に助けを求め

た事か。その都度父は何も言わないで用立ててくれた。初めての選挙の時、私は三ヶ月の長男を背負って事務所に行っていた。慌しくなってきた頃、「子どもを連れてこないように」と役員に言われ、先輩の奥様に「見てあげるから連れてお出で」と言って頂き、その言葉に甘えた。それ以来三人の子供は、選挙のたびに他人様にお世話になって育てて頂いたのである。福田は困り果てる「頼むよ！」と言う。そう言われたらやるしかない。その繰返しの25年であった。何もない私達がここまでやってこられたのは、陰に陽に支えて下さった多くの皆様のお陰である。支えて下さる全ての皆様に感謝。感謝の日々を今しみじみと思う。

事務所からのお知らせ

知事私設秘書・多田寛が9月17日に結婚しました！妻・恭子さんは高齢者施設の介護師として信望の篤い人。同じくサブ秘書・佐藤有美は10月に開催されたウエイクボード全国大会で優勝。プロの資格を得た。その縁でスポーツ誌編集者・安藤直樹さんと結ばれて1月に退所。後任は高橋千裕さんです。

編集後記

新年おめでとうございます

す。私たち事務所一同も健康に努めつつ、皆様のご指導とご協力をいただき、よい仕事を心がけてまいります。本年もよろしくお願ひ申し上げます。穏やかな正月風景の中にあつて、地球上の向うでは戦闘がくり広げられ、あるいは一触即発の緊張にさらされる状況もあり、国内をみれば、想像だにないような事件が続発する有様です。どうか明るい事始めの年となりますよう、そして皆様のご多幸をお祈りいたします。

◆福田富一後援会事務所

宇都宮市江曾島町98番地
電話 028(645)5100
FAX 028(645)1124

平成19年度スケジュール予定

- ・ハイキング(ハイキング愛好会主催) 日時 5月頃予定
- ・講演会(ゆりの会主催) 日時 9月頃予定
- ・知事と語る会(後援会・ゆりの会共催) 日時 11月頃予定
- ・もちつき大会 日時 12月2日(日)
- ・ゆりの会新年会(女性のみ) 日時 2月17日(日) 午前11時



※詳細につきましては、後援会事務所にお問合せ下さい。